

問7は 現在、保育園や幼稚園に入園させている方におうかがいします。

問7 それぞれのお子さんのために現在負担している保育料（延長保育料、おやつ代等を含む）・幼稚園の月謝はおいくらですか。n=1330

	(平均)	万	千	百	十	一	円
一番下のお子さんの保育料・月謝	月額	2	3	0	5	8	
下から2番目のお子さんの保育料・月謝	月額	2	0	6	4	7	
下から3番目のお子さんの保育料・月謝	月額	1	7	0	0	0	

■（全員の方に）保育料、保育園についておうかがいします。

問8 現在、保育にかかる費用は、保育料よりもかなり高くなっています。認可保育園制度を維持するために、あなたは月額保育料を最高いくらまでなら、支払ってもよいと思いますか。一番下のお子さんの場合を想定してお答えください。n=1330

38.1	2万円まで	-	12万円まで	
30.3	3万円まで	-	15万円くらいまで	
5.0	4万円まで	11.1	保育園に預ける必要がないから、考えたことがない	
3.8	5万円まで	2.3	保育園預けたくない	
0.2	6万円まで	3.5	わからない	5.2 無回答
0.4	8万円まで		(問9へ)	
0.2	10万円まで			

問8-1 上記(問8)でお答えになられた保育料を払う場合、次のそれぞれについてどの程度重視しますか。n=1037

	ぜひほしい	できれば欲しい	ほしいと思わない	無回答
(ア) 少人数クラスであること	24.6	57.6	14.7	3.2
(イ) 園内給食があること	72.2	22.4	3.4	2.0
(ウ) 保育園内に子供が自由に遊べる園庭があること	87.8	10.1	0.1	1.9
(エ) 保育園が自宅から徒歩圏内にあること	47.7	39.6	10.8	1.8
(オ) 延長保育が利用可能であること	59.6	32.8	5.7	1.9
(カ) 土日は開園していること	25.2	42.6	29.7	2.5
(キ) 園から駅から近いこと	13.0	30.7	52.2	4.1
(ク) 英語教育、音楽教育等特別な教育をすること	13.7	41.7	42.1	2.5

問9 自宅でもその子どもを預かる保育ママの制度を持つ国がありますが、あなたはそのための訓練と仕事の機会を提供されたら、よその子どもを預かるつもりはありますか。その際にはいくらくらいが妥当と思われますか。n=1330

9.1	月極で預かってみたい	月額	5 2 7 5 8	円
32.3	一時的に預かってみたい	1時間	1 3 5 9	円
7.1	ボランティア活動として預かってみたい			
54.7	他人の子どもを預かることはしたくない			
4.0	無回答			

問10 あなたは、町村役所の保育課に保育園の入園申請をした経験がありましたか。n=1330

41.1	申請した後に入園できた	40.7	幼稚園に入れるつもりだったから申請しなかった
4.2	申請したが入園できなかった	9.6	その他の理由で申請しなかった
		4.4	無回答

■ 子育てについておうかがいします

問11 配偶者（夫）の方はおられますか。n=1330

95.8 い る 4.2 いない

(配偶者のいない方は問16へお進みください)

問11-1 子育てについて、配偶者（夫）はどの程度協力してくれますか。(○はそれぞれ1つずつ)
n=1274

	よく協力 してくれる	まあ 協力して くれる	あまり 協力して くれない	全く協力 してくれ ない	無回答
(ア) 子どもの身の回りの世話	18.8	43.5	28.8	8.5	0.5
(イ) 子どもの遊び相手	32.3	45.4	19.7	2.3	0.3
(ウ) 子どもの勉強の手伝い	15.1	39.1	30.8	13.3	1.6
(エ) 子どものしつけ	23.1	50.8	21.7	3.8	0.5

問11-2 次の中ではどうでしょうか。(○はそれぞれ1つずつ)

n=1274

	いつも感じる	時々感じる	あまり感じない	全く感じない	無回答
(ア) 配偶者は子育てに関する考え方に共感してくれる	27.4	48.9	19.6	3.5	0.6
(イ) 配偶者は育児の悩みの相談にのってくれる	34.5	38.8	19.8	6.2	0.7
(ウ) 配偶者は育児生活上のストレス発散ができるように配慮してくれる	21.4	35.2	30.2	12.3	0.9
(エ) 配偶者は子育ての大変さなど私の苦労を理解している	24.3	37.4	27.0	10.4	0.9

問12 あなたは子育てをしていて、次のようなことを感じる事がどの程度ありますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

n=1330

	いつも感じる	時々感じる	あまり感じない	全く感じない	無回答
(ア) 子どもを育てるのは楽しい	33.8	58.8	6.8	0.2	0.4
(イ) 子育てしながら自分自身も成長している	41.1	47.5	10.8	0.4	0.2
(ウ) 子育てに自信がもてない	6.0	53.5	33.3	6.8	0.4
(エ) 子育てに追われて、自分のやりたいことができない	15.0	51.6	27.7	5.5	0.3
(オ) 子どものことでイライラする	12.6	66.2	18.6	2.2	0.5
(カ) どのようにして子どもを育てたらよいか不安を感じる	8.9	50.6	33.2	7.0	0.2

問13 あなたは子育てで日ごろ次のようなストレスを感じますか。(〇はいくつでも) n=1330

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 18.9 落ち込んだ、元気がなくなること | 11.4 集中できなくなる |
| 70.8 イライラし易い、怒り易いこと | 22.3 何をやっても大変と感じる |
| 1.7 恐怖感 | 6.5 眠れない |
| 7.4 孤独感 | 4.4 自分はいつも運が悪いと思う |
| 9.4 悲しい気分になる | 13.3 いつもより他人と喋りたくなくなる |
| 3.2 堅苦しい雰囲気になる | 18.9 特にストレスは感じない |
| 2.1 食欲がなくなる | 1.4 無回答 |

問14 あなたは、普段の生活をどのように感じてていますか。 n=1330

	いつも感じる	時々感じる	あまり感じない	全く感じない	無回答
(ア) ふだんの生活でもとても楽しいことがある	14.2	63.3	20.9	1.0	0.6
(イ) 毎日がただ何となく過ぎてゆくような感じがする	15.9	51.7	26.8	5.2	0.5
(ウ) もっと別の生き方をしてみたいと思うことがある	10.4	48.3	31.8	9.0	0.5
(エ) ときどき、毎日の生活にむなしさを感じる	4.3	38.0	42.2	15.0	0.5
(オ) 充実した人生を歩んでいる気がする	11.0	45.5	39.5	3.3	0.7
(カ) 毎日の生活にうるおいが感じられない	5.4	42.6	44.8	6.8	0.4
(キ) 自分にはやり残したことが沢山あるように思う	12.3	40.0	39.5	7.6	0.6
(ク) 今の生活の中で、自分の力を十分発揮できている	7.1	34.7	51.6	5.6	0.9
(ケ) 自分には仲間が多い	21.6	41.5	32.4	4.1	0.5
(コ) 心配なことを話せる人がいる	48.3	38.4	10.4	2.5	0.5

■子育てのかかる費用についておうかがいします

問15 塾や習い事をさせているお子さんはいますか。(いる場合)そのお子さんの年齢と1カ月当たりの費用をご記入ください。(ひとりで2つ以上の習い事をさせている場合は、その合計金額をご記入ください) n=986

		塾や習い事の費用				
歳のお子さん	1カ月の費用	1	2	3	7	6 円
歳のお子さん	1カ月の費用	1	1	7	8	9 円
歳のお子さん	1カ月の費用	1	2	2	7	7 円
1 塾や習い事をさせている子どもはいない						

問16 あなたはお子さんについて、どこまでの教育なら、費用を負担しても良いと思いますか。n=1330

- 15.4 高校まで
- 14.3 短期大学または専門学校まで
- 51.3 四年制大学まで
- 7.5 大学院まで
- 10.5 わからない
- 1.0 無回答

問17 (1) お宅の毎月の平均生活費(食費、衣服代、家賃、医療費、光熱費、電話代、娯楽費、教育費を含む、耐久消費財の購入を除く)は、どの位ですか。n=1330

月額

2	3	6	2	0	5
---	---	---	---	---	---

 円

(2) そのうちお子さんのためにかかった養育費(食費、衣服代、医療費、教育費、オムツ代などを含む、保育料を除く)の総額は、どのくらいですか。n=1330

月額

5	6	6	0	8
---	---	---	---	---

 万円

■就業と出産・子育てについておうかがいします。

問18 あなたの過去の就労状況についておうかがいします。

①次の各時期ごとに、フルタイムの就労（育児休業期間中も含む）、パートの就労、働いていないの中からお答えください。（その期間内に複数ある場合は、期間が一番長かった状況をご記入ください）

（ひとりっ子の場合は、そのお子さんを第1子および末子としてお答えください）

②（働いていなかった方は）働いていない理由をあげてください。（○は2つまで）

n=1330

	①就労状況				②働いてない理由（2つまで）										
	フルタイムで就労	パートで就労	働いていない	無回答	結婚・出産で会社を辞めなければならなかったから	子どもを保育所などに預けられなかったから	家事・育児に専念したかったから	夫や親族の子育ての協力が得られなかったから	夫の転勤のため	適当な仕事が見つからなかった	自分の体力・健康上の理由から	会社の都合（解雇・契約期間の終了など）	もともと働くつもりはなかった	その他	無回答
結婚した直後	48.6	15.6	30.5	5.3	38.4	0.2	30.0	1.2	5.7	4.4	4.2	0.7	25.4	8.4	3.4
第1子を妊娠したとき	36.9	14.1	42.0	7.1	9.9	1.4	50.2	2.7	2.5	3.9	15.9	0.2	22.0	5.0	4.8
第1子を出産した直後	14.6	6.3	71.7	7.4	9.4	5.6	63.0	5.0	1.0	2.4	6.8	0.7	20.5	4.1	3.1
末子の出産から3歳までの期間（最も長い状況）	15.3	18.9	56.6	9.2	1.6	7.3	64.9	7.3	1.3	7.0	3.6	0.1	21.1	4.4	3.9
末子が3歳から小学校入学前（最も長い状況）	13.6	27.3	25.9	33.2	0.3	3.2	55.1	7.8	1.2	15.1	5.8	-	21.4	7.8	4.1
末子が小学校入学から現在まで（最も長い状況）	11.7	26.1	9.8	52.4	-	1.5	41.2	6.1	3.1	25.2	12.2	0.8	19.1	9.2	6.1

問19「第1子を妊娠したとき」「第1子を出産した直後」「末子の出産から3歳時までの期間」時働いていた方におうかがいします。

問19 次の各時期、どのようなところで働いていましたか。下の の枠から選んで番号を答え
てください。また、子育て支援制度のあるものを○をつけてください。

(ひとりっ子の場合は、そのお子さんを第1子としてお答えください)

	① 勤務先 (下の□の番号)	②仕事先の子育て支援制度											
		勤務時間短縮制度	女子再雇用制度	在宅勤務制度	フレックスタイム	勤務制度 ベビシッター費	の費用補助制度	保育所の費用	補助制度	企業内保育施設	お子さんの看護の ための休暇制度	育児休業中の所得 補填制度	育児休業制度
第1子を妊娠したとき		10.8	2.7	0.6	4.7	0.1	0.3	0.9	2.4	7.1	26.5	47.5	17.7
第1子を出産した直後		15.5	2.2	1.1	4.0	-	1.4	2.2	4.7	10.4	43.2	34.5	9.7
末子の出産から3歳までの期間 (最も長い状況)		10.8	0.9	1.1	2.9	0.4	1.5	3.7	3.5	6.4	20.3	50.4	18.9

【仕事コード一覧】

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 従業員1000人以上の企業の正社員 | 6 自営業者(従業員9人以下) |
| 2 従業員100~999人の企業の正社員 | 7 自営業者(従業員10人以上) |
| 3 従業員99人以下の企業の正社員 | 8 家族従業員 |
| 4 公務員 | 9 農林漁業従事者 |
| 5 臨時労働者・パート・派遣社員 | 10 その他 |

問20 あなたは転職された経験はありますか。 n=1330

48.2 ある

47.4 ない

4.4 無回答

(問21へ)

問20-1 それは次の時期でしたか。(○はいくつでも) n=641

26.2 結婚を決める直前	20.6 末子の出産から3歳未満前の期間
17.8 結婚した直後	20.0 末子が3歳から小学校入学前
4.7 第1子を妊娠した時	17.6 末子が小学校入学から現在
4.4 第1子を出産した直後	12.5 無回答

問21 あなたは退職経験はありますか。 n=1330

82.0 ある 14.4 ない 3.7 無回答

問21-1 勤め先をお辞めになるとき、退職金を受け取られましたか。(複数回ある方は最近のことについてお答えください) n=1090

65.4 はい 34.3 いいえ 0.3 無回答

(問21-4へ)

問21-2 退職金の金額はいくらでしたか。 n=713

退職金の金額は約 5 3 . 5 万円

問21-3 退職金は主にどのようにお使いになりましたか(予定を含み、○は2つまで) n=713

- 39.8 生活費として使った
- 0.3 独立開業などの資金として使った
- 5.6 住宅購入などの資産形成に使った
- 3.9 お子さんの学費などお子さんのために使った
- 28.9 将来の生活のために貯蓄した
- 23.7 結婚資金として使った
- 6.7 その他(具体的に)
- 0.7 無回答

問21-4 そのお勤め先に企業年金があったかどうかご存知でしたか。(企業年金は、厚生年金基金、適格退職年金、中小企業退職金共済制度など、企業独自の年金を指します。) n=1090

55.0 あったことは知っていた 20.9 あったことはしらなかった 21.4 なかった 2.8 無回答

全員の方におうかがいします

問25 公的年金について伺います。現在、年収130万円未満のサラリーマンの妻は個人としては社会保険料を負担していませんが、20歳以上の者は未婚者であれば原則社会保険料を納める義務があります。女性と年金のあり方について、議論が高まっていますが、専業主婦の社会保険料の負担についてあなたのお考えはどれに近いですか。

n=1330

	そう思う	どちらか というど そう思う	どちらかと いうとそう 思わない	そう思わ ない	無回答
(ア) 収入があるかどうかに関係なくサラリーマンの妻も社会保険料を負担すべきだ	11.7	14.4	29.5	42.3	2.0
(イ) 年収は60万円以上のサラリーマンの妻も社会保険料を負担すべきだ	14.6	24.4	29.0	29.4	2.6
(ウ) 育児・介護期間中、妻の社会保険料は免除するべき	53.9	29.5	9.7	5.1	1.8
(エ) 離婚した妻に夫の年金の半分を分けるべきだ	25.2	27.3	27.1	17.4	2.9

問23 現在、厚生労働省はお子さんを持つ世帯に対する様々な保育支援政策を検討しておりますが、もし実現できれば、あなたにとって次のどの形の支援が一番望ましいのでしょうか。n=1330

41.8 児童手当の拡大 14.8 就学前の子ども特に0～2歳児の集団保育施設の増設
9.2 学童保育の拡充 29.5 税制面の優遇措置 2.0 その他（具体的に ） 2.7 無回答

問24 予定している子ども数（現在の子どもも含む）とあなたの家庭にとって理想とする子ども数について、それぞれお答えください。n=1330

予定している子ども数 2.3 人 ; 理想とする子ども数 2.7 人

■あなたご自身のことについておうかがいします。

問25 あなたのお年をお聞かせください。n=1330

- 0.6 8.0 24.7 36.7 23.4 5.8 0.6 0.2
～19歳 20～24歳 25～29歳 30～34歳 35～39歳 40～44歳 45～49歳 50歳以上 無回答

問26 あなたが最後に卒業した学校は次のどれにあたりますか。n=1330

（就職の後に通った学校も含めた、最後に卒業した学校をお答えください）

2.0 中学校 24.8 短期大学・高等専門学校
46.8 高等学校 10.4 四年制大学・大学校
15.5 専修・各種学校 0.3 大学院 0.2 無回答

問27 あなたの現在のお仕事は次のどれにあたりますか。n=1330

2.2 従業員1000人以上の企業の正社員 2.8 内職
3.5 従業員100～999人の企業の正社員 6.2 自営業者
4.7 従業員99人以下の企業の正社員 0.5 農林漁業従事者
4.7 公務員 3.9 家族従業者
37.6 臨時労働者・パート・派遣社員 1.3 その他（ ）
32.3 無職
0.2 学生 0.2 無回答

(問30へ)

問27-1 職種は次のどれにあたりますか。(○は1つ) n=701

22.3 専門・技術職（医師、弁護士、教員、看護婦、デザイナーなど）
- 管理職（課長以上の公務員または会社員、会社役員など）
26.4 事務・営業職（事務員、営業社員、銀行員など）
32.8 販売・サービス職（外交員、理美容師、ウェイトレス、店員など）
15.0 技能・熟練・作業職（工場労働者、警察官、運転手、キーパンチャーなど）
2.7 その他（具体的に ）
0.9 無回答

問28からは働いている方におうかがいします。

問28 次にあげることがらのうち、あなたの職場（仕事場）について、あてはまるかどうか「はい」「いいえ」でお答えください。n=897

		はい	いいえ	無回答
(ア)	自分の能力は正当に評価されている	61.1	35.8	3.1
(イ)	仕事のスケジュールは自分で決められる	57.2	39.7	3.1
(ウ)	残業が多い	18.6	76.6	4.8
(エ)	納得できる収入を得ている	42.5	54.3	3.2
(オ)	育児休業を取りにくい雰囲気がある	32.3	62.4	5.2
(カ)	子育て中の社員の仕事をバックアップする雰囲気がある	44.8	50.1	5.1
(キ)	女性は結婚・出産で退社するものという雰囲気がある	18.4	76.0	5.6

問29(1)通常、自宅を出られる時間は何時頃ですか。（自宅でお仕事をされている方は仕事を始める時間をご記入ください。）（24時間制でお答えください）n=897

時 分頃

問29(2)通常の帰宅時間はだいたい何時頃ですか。（自宅でお仕事をされている方は仕事を終える時間をご記入ください。）（24時間制でお答えください）n=897

時 分頃

問29(3)通常、自宅からあなたの職場までの通勤時間は、だいたいどれくらいかかりますか。（自宅でお仕事をされている方は00時間00分とご記入ください）n=897

時間 16.9 分くらい

問30 現在の職業について何年くらいになりますか。n=897

22.7 2年未満 32.8 2～4年 17.3 5～9年 11.5 10～14年 12.9 15年以上 2.8 無回答

問30 過去1年間のあなた個人の収入は税込みで次のどれに近いでしょうか。臨時収入、副収入も含めてお答えください（1,400万円以上の場合は、具体的な金額をお答えください）。また、パートの方は、時給についてもお答えください。n=897

18.1	50万円未満	3.0	500～600万円未満	
35.6	50～103万円未満	2.1	600～700万円未満	
13.7	103～150万円未満	0.7	700～800万円未満	
5.7	150～200万円未満	0.4	800～900万円未満	
7.5	200～300万円未満	-	900～1,000万円未満	
4.1	300～400万円未満	0.1	1,000～1,200万円未満	
3.7	400～500万円未満	-	1,200～1,400万円未満	
		-	1,400万円以上	万円
		5.4	無回答	

パートの方のみご記入ください 時給 8 5 8 円

問33-4 保育所などに子どもを預けて働く場合、保育料を払わなければなりません、あなたはご自分の収入と保育料について、どのようにお考えですか。(〇は1つ) n=369

(2を選ばれた方は 内に具体的な数字(1~99)をご記入ください。)

- 0.5 子どもを預ける保育料が自分の収入と同じ、あるいは超えても働きたい
- 62.3 子どもを預ける保育料が自分の収入の 32.9 %以下であれば働きたい
- 33.1 どちらとも言えない
- 4.1 無回答

問34~問37(4)は配偶者の方のことについておうかがいします。(配偶者がおられない方は問41へ)

問34 配偶者の方のお年をお聞かせください。 n=1274

-	0.5	4.5	16.2	28.9	28.4	15.7	4.7	1.1
~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50歳以上	無回答

問35 配偶者が最後に卒業した学校は次のどれにあたりますか。 n=1330

(就職の後に通った学校も含めた、最後に卒業した学校をお答えください)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 5.3 中学校 | 4.9 短期大学・高等専門学校 |
| 43.7 高等学校 | 31.7 四年制大学・大学校 |
| 10.8 専修・各種学校 | 2.5 大学院 |
| | 0.9 無回答 |

問36 配偶者の現在のお仕事は次のどれにあたりますか。 n=1274

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 19.5 従業員1000人以上の企業の正社員 | - 内職 |
| 22.1 従業員100~999人の企業の正社員 | 14.6 自営業者 |
| 25.0 従業員99人以下の企業の正社員 | 1.0 農林漁業従事者 |
| 10.4 公務員 | 1.1 家族従業者 |
| 1.9 臨時労働者・パート・派遣社員 | 1.6 その他 () |
| | 1.5 無職 |
| | - 学生 |
| | 1.4 無回答 |

問36-1 配偶者の職種は次のどれにあたりますか。(〇は1つ) n=1004

- 14.7 専門・技術職(医師、弁護士、教員、看護婦、デザイナーなど)
- 15.9 管理職(課長以上の公務員または会社員、会社役員など)
- 26.8 事務・営業職(事務員、営業社員、銀行員など)
- 6.8 販売・サービス職(外交員、理美容師、ウェイトレス、店員など)
- 33.7 技能・熟練・作業職(工場労働者、警察官、運転手、キーパンチャーなど)
- 1.5 その他(具体的に)
- 0.6 無回答

問37(1)から問37(4)は現在、配偶者の方が働いている方におうかがいします。

問37(1) 通常、自宅を出られる時間は何時頃ですか。(自宅でお仕事をされている方は仕事を始める時間をご記入ください。)(24時間制でお答えください) n=1237

時 分頃

問37(2) 通常の帰宅時間は何時頃ですか。(自宅でお仕事をされている方は仕事を終える時間をご記入ください。)(24時間制でお答えください) n=1237

時 分頃

問37(3) 通常、自宅から職場までの通勤時間は、だいたいどれくらいかかりますか。(自宅でお仕事をされている方は00時間00分とご記入ください) n=1237

時間 34.9 分くらい

1 わからない

問37(4) 過去1年間の配偶者の方の収入は税込みで次のどれに近いでしょうか。臨時収入、副収入も含めてお答えください(1,400万円以上の場合は、具体的な金額をお答えください)。n=1237

	16.4	500～600万円未満	
0.6	50万円未満	12.4	600～700万円未満
0.4	50～103万円未満	8.5	700～800万円未満
1.0	103～150万円未満	5.9	800～900万円未満
1.4	150～200万円未満	3.7	900～1,000万円未満
9.7	200～300万円未満	2.6	1,000～1,200万円未満
17.0	300～400万円未満	0.6	1,200～1,400万円未満
17.3	400～500万円未満	0.8	1,400万円以上
		1.7	無回答

万円

全員の方におうかがいします

■あなたとご家族のことについておうかがいします。

問38 現在、いっしょに住んでおられる方(単身赴任も含めて)は、あなたも含めて何人いらっしゃいますか。n=1330

-	1.1	14.5	39.8	44.2	0.4	4.6
1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均

問39 いっしょに住んでおられる中学生以上の方（単身赴任も含めて）すべてあげてください。

（〇はいくつでも）

n=1330

100.0	あなたご本人	11.3	父（義父）65歳以上	3.6	祖父母
95.8	配偶者（夫）	3.7	父（義父）65歳未満	0.7	配偶者の兄弟姉妹
23.1	中学生子ども	15.6	母（義母）65歳以上	0.6	あなたの兄弟姉妹
11.1	高校生以上の子供	6.8	母（義母）65歳未満	1.1	その他の親族

問40 現在、お住まいの住宅（単身赴任者の場合は家族がお住まいの住宅）は次のどれですか。

n=1330

(○は1つ)

- 45.6 持ち家（ローン有り）
- 13.7 持ち家（ローン無し）
- 10.0 親・親族の持ち家
- 17.1 民間賃貸住宅
- 9.2 公営・公団・公社の賃貸住宅
- 4.1 社宅・職員住宅・勤務先借上住宅・寮
- 0.1 その他の住宅（具体的に)
- 0.4 無回答

問41 過去1年間の世帯収入は税込みで次のどれに近いでしょうか。他のご家族の収入、臨時収入、副収入も含めてお答えください（2,000万円以上の場合は、具体的な金額をお答えください）。

n=1330

(○は1つ)

- | | | | |
|------|-------------|-----|-----------------|
| 1.0 | 100万円未満 | 8.1 | 800～900万円未満 |
| 2.1 | 100～200万円未満 | 5.9 | 900～1,000万円未満 |
| 5.1 | 200～300万円未満 | 6.9 | 1,000～1,200万円未満 |
| 12.0 | 300～400万円未満 | 3.3 | 1,200～1,400万円未満 |
| 13.6 | 400～500万円未満 | 1.4 | 1,400～1,600万円未満 |
| 14.2 | 500～600万円未満 | 0.8 | 1,600～1,800万円未満 |
| 12.7 | 600～700万円未満 | 0.6 | 1,800～2,000万円未満 |
| 9.1 | 700～800万円未満 | 0.5 | 2,000万円以上 |
| | | | 万円 |
| | | 2.6 | 無回答 |

問42 あなたやあなたの配偶者がお持ちの金融資産（預貯金、株式、保険など）の合計額はおよそいくらぐらいになりますか（3,000万円以上の場合は、具体的な金額をお答えください）。n=1330

- | | | | |
|------|---------------|------|-----------------|
| 25.4 | 100万円未満 | 10.2 | 1,000～2,000万円未満 |
| 25.9 | 100～300万円未満 | 3.4 | 2,000～3,000万円未満 |
| 14.7 | 300～500万円未満 | 1.0 | 3,000万円以上 |
| | | | 万円 |
| 15.1 | 500～1,000万円未満 | 4.3 | 無回答 |

ご協力ありがとうございました。

第4章 国際比較研究1 「子育て支援策の日加比較」

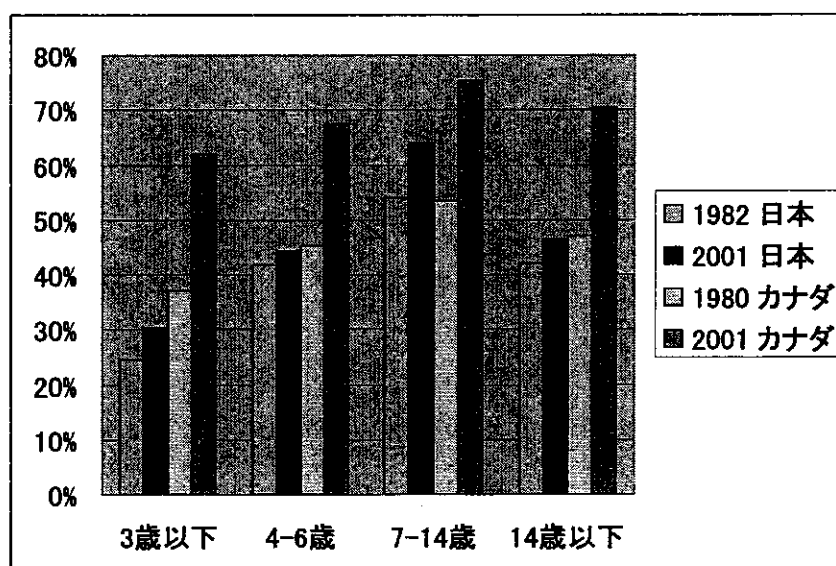
お茶の水女子大学 永瀬伸子

本稿の目的はカナダの子育てと就業の両立支援政策を検討し日本と比較することにある。カナダでは幼い子どもを持つ母親の継続就業が急速に広まっており、このため政策課題が日本とは異なる点もあるが示唆も多い。また両国の比較は日本の政策の特徴をより明らかにするだろう。第1節では子供のいる世帯の母親の就業状況と変化を見る。第2節では、就業中の子供のケアはカナダではどうなされているのか、父親の参加、託児の実態、その評価等について紹介する。第3節では、カナダの子育て支援策を記述し、日本と比較する。児童給付、雇用保険からの出産・親休業給付、保育政策（保育費用の税額控除を含む）、その他の政策を取り上げる。第4節はまとめである。2001年6月に行われた日本カナダ社会政策会議における Duxbury 教授の講演にも言及しつつ、日本への示唆を述べる。

I. カナダと日本の子育て世帯：母親の就業状態

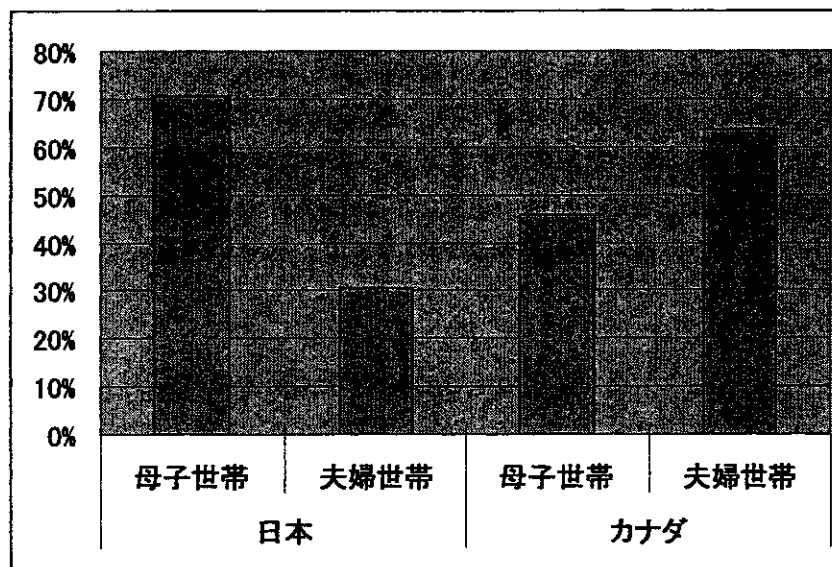
カナダの母親は幼い子どもの有無にかかわらず、驚くほど多くが仕事に就いている。図1のとおり、1980年当時はカナダも日本の母親とさほど変わらなかった。当時2歳以下の子を持つカナダ女性の労働力率は37%に過ぎなかった。しかし20年間に62%へと劇的に増大する。日本では現在でも末子年齢が低いほど母親の労働力率は大きく下がり、末子3歳以下と学齢とでは31%と64%、つまり30%ポイントの差がある。一方、カナダでは2歳以下の子供を持つ母親の労働力率も62%であり、学齢児の親の75%と比べて格差は10%強と小さい。

図1 幼い子どもを持つ母親の労働力率の変化：日加比較



カナダでは一人親世帯の増加という変化も見られる。過去10年間で4/3倍に増加、6歳未満時がある世帯のうち、一人親世帯の割合は14%である。興味深いのが母子世帯と夫婦世帯の母親の労働力の差である。図2には2歳以下の子どもがいる母親の労働力率を示した。日本では母子世帯の母親の労働力率は71%であり夫婦世帯の母親の31%を大きく超える。一方カナダでは母子世帯の46%に対して逆に夫婦世帯の母親の労働力率の方が64%と高い。カナダもかつては夫婦世帯の母親の労働力率の方が低かったが(1976年に、15歳以下の子供のいる母子世帯48.3%に対して夫婦世帯の妻38.4%)、1984年頃を境に逆転した。母子世帯をより脆弱な世帯と見るとすれば、かつては、より脆弱な世帯の母親が仕事を持ったが、現在のカナダではより脆弱な世帯の母親が仕事を持たない。この間、母親が仕事を持つことが、カナダでは当たり前のこと、あるいはどちらかという望ましいことになったのではないかと推察する。

図2 2歳以下の子どもがいる母親の労働力率
母子世帯と夫婦世帯の日加比較



注) 日本の母子世帯は1997年『就業構造基本調査』、夫婦世帯は2001年『労働力特別調査』である。カナダはStatistics Canada Labor Force Survey。日本の夫婦世帯は3歳以下の子どもの分類である。

日本では母親が仕事を持たないことが貧困と結び付けられることは少ない。一方カナダでは、母親の就業中の子供のwell-beingへの関心が高まっているとは言え、実態として母親が仕事を持っているかどうかで世帯の稼得所得に大きい差を生む。National Longitudinal Survey of Children and Youth (NLSCY) 1994年調査を集計したLefebvre and Merrigan (1998)によれば、4-5歳児のいる世帯について、有子夫婦世帯の所得平均は母親が有業

の場合 64000 ドル、無業かパート就業の場合は 46000 ドルであった（構成割合としては後者の方が少ない）。また母親が有業の母子世帯で 26000 ドル、無業かパートの母子世帯では 15000 ドルである。つまり母親が仕事を持たないことが世帯の所得低下に強く結びついている。カナダでは女性の労働力率と学歴は大きい正の関係を持っており、仕事を持つということは、持てるということでもあるのだろう。一方日本では幼い子供を持ちつつ仕事を持つ母親は依然として少数派である。

なお 25-44 歳層を見ると、カナダでは女性の労働力率が大きく上がる一方、壮年期についても男性の労働力率が落ちる傾向がある。女性の労働力率が 1980 年の 57.8%から 2001 年の 75.3%にと大きく増える一方で、男性の労働力率は 1980 年の 90.1%から 2001 年に 85.9%に低下している。日本では、女性の労働力率は上昇したが、男性の労働力率が下がるというほどの大きい変化は起きていない。

II. 幼い子供のケア

1. 父親と育児

末子が 2 歳以下でも母親の 6 割が働くカナダでは、子供は誰がどのケアしているのだろうか。Kobayashi (1999)、小林 (2000) は、6 歳未満児のいる世帯について、日本とカナダの生活時間比較を日記調査から比較したが、子供と風呂に入る、子供と遊ぶといった程度の参加である日本男性に比べて、カナダ人男性は炊事、掃除、子供の着替えなどの家事への参加が高いことを指摘している。小林はまたカナダの生活時間調査である General Social Survey Cycle 7(1992)と日本の総務省『社会生活基本調査』1997 年とを比較、6 歳未満児のいる 30-39 歳層のカナダ男性と日本男性を比べると、育児・家事時間が日本男性 19 分、カナダ男性 2 時間 13 分と大きい差があること、さらに子供がいる世帯とない世帯を比べると、日本では、子供の存在は女性の賃金労働時間を減らすと男性の賃金労働時間はむしろ伸ばすのに対して、カナダでは男女ともに子供の存在が賃金労働時間を減らすことを見出している（30-39 歳層の男性を挙げると日本では労働時間が 7 時間 40 分へ 22 分増加、逆にカナダでは、6 分とわずかだが 5 時間 15 分へと減少する）。

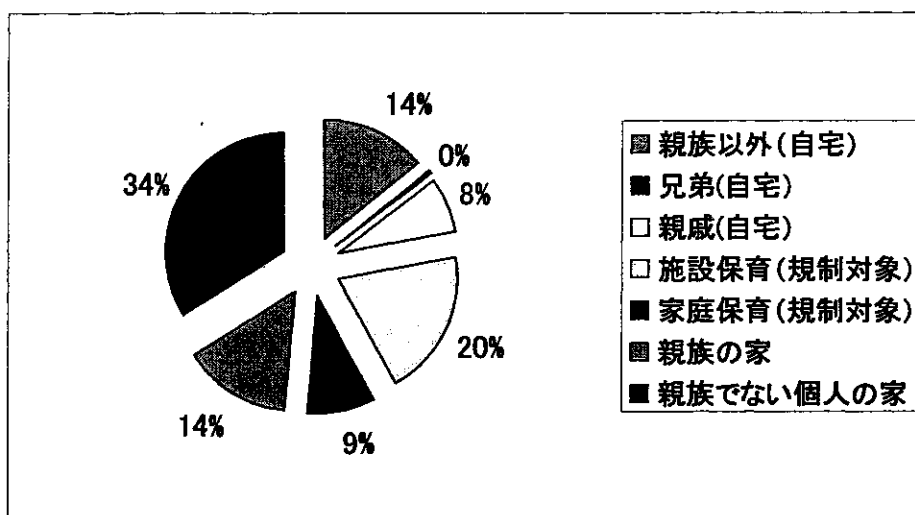
2. 親以外からのケア

親以外からはどのようなケアを受けているのだろうか。non-parental care を有償で定期的な親以外からのケア（週 10 時間以上、1 年 8 ヶ月以上）と定義した上で Norris, Brink and Mosher (1999) は、1994 年の NLSCY を用いて 0 歳児では 24%が、1、2 歳児では 44%が、3 歳児では 43%がこうした有償ケアを定期的に受けていたとする。就学年齢に達するとともに有償ケアを受ける割合は低下、6 歳児で 32%、9 歳児で 27%、11 歳児で 13%である。つまりカナダでは父親の育児参加も多いが、加えて 0-5 歳児をまとめればその 40%、6-11 歳児では 27%が有償ケアを受けている。母親がフルタイム就業の場合、親以外のケアを利用する者は 67.8%、パートでは 51.5%であるとしている。

ではどんなケアを受けているのだろうか。図 3 は 0-5 歳児で見た保育の内訳であるが、非定型的で個人的で規制もほとんどない「他人の家庭に預ける」、あるいは自宅にベビーシッターとして来てもらうといった保育がカナダの主流である。場所別に見ると、自宅に

きてもらうが 22%、保育園が 20%、個人宅が 57%である。親族でない個人による、規制なしの託児を 48%をしめ、うち個人の家での保育が 34%、自宅での出張保育が 14%である。

図3 カナダの保育利用の構成 (0-5 歳児)
定期的に親以外のケアを受けている者の内訳



(出所) Norris, Brink and Mosher (1999) より作成 (NLSCY 1994 による)

なぜ個人的な託児が多いのだろうか。一つは価格の問題があると考えられる。Norris, Brink and Mosher (1999) は、1996 年の施設保育の平均価格は月間 0 歳児で 458 ドル、2 歳児で 424 ドル、3 歳児で 392 ドル、4 歳以上で 309 ドルといった調べを示している。表 1 から他の保育形態の価格と比較すれば、施設保育がもっとも高価、出張保育が次いで高価、個人託児がもっとも安価である。保育者の資質という点では、施設保育の場合、保育者の平均学歴が一番高いが、それでも年収は 150 万円程度ときわめて低賃金である。出張保育は子供対保育者比率がもっとも高いが、保育者の年収は 70 万円程度、自宅保育も年収 80 万円程度である。比較的低学歴の者の仕事になっている面が否めない。

表1 カナダの多様な保育：その特性

	出張保育	家庭保育	施設保育	家庭保育 (規制対象)
保育者の年収平均	8700ドル	10400ドル	18500ドル	15600ドル
親が支払う保育料の平均	3700ドル	3000ドル	N.A.	3200ドル
保育者が未婚である割合	54%	18%	37%	11%
保育者が高卒免状を持つ割合	77%	86%	85%	85%
保育者が専門学校卒である割合	28%	33%	48%	36%
平均子供数	2.3人	3.5人	N.A.	4.9人1

(出所) Beach, Bertrand and Cleveland (1998) 他、Norris, Brink and Mosher (1999) より転載

両親の学歴と所得階層が高いほど子どもが親以外からのケアを受ける割合が高い。5歳以下の子供を持つ世帯で、所得階層第1五分位では23.8%、所得階層第5五分位では51.8%が親以外のケアを使っていると Norris らは示している。また保育の種類を見ると、高所得の第5五分位で一番利用が多いのが個人託児（規制対象外）で3割強、次いで出張保育、施設保育（それぞれ約2割）である。逆に施設保育の利用が多いのは、低所得世帯である。低所得層（第1五分位）の利用者の3割が施設保育利用、続いて個人託児（規制対象外）、親族ケア（それぞれ2割弱）であるとする。

幼い子供の保育に施設保育と並行して家庭保育が活用されている国に、北欧、フランスなどもあるが、カナダはこれらの国に比べてもさらに非公式の家庭託児に偏った国といえるだろう。低所得層のみが保育料の軽減等を受けられるため、施設ケアの利用者は一人親世帯、低所得世帯、高校を終了していない母親、きわめて若い母親、高い保育料を払うことが可能な職業が確立した40歳以上の母親と Norris らは指摘している。

ちなみに有業の母親の子どもの保育状況を日本について国立社会保障人口問題研究所『第11回出生動向基本調査』から集計した結果が表2である。これはカナダの結果と直接比較は出来ない。まず第1子が1歳になるまでと低年齢なこと、子供の保育の担い手の主なもの3つまで選択であり、排他的な選択肢となっていないこと、親のみのケアを受けている子どもも集計に含まれること、定期的でない無償ケア者も集計に含まれることなどである。ただし全般の傾向はわかり、有業者に限っても、認可保育園の利用が2割、同居親族の利用が2割、別居親族の利用が2割強であり、個人の家での託児が全体の2%ときわめて限られているのがカナダと対比できる日本の特徴といえる。